万葉集

F
瓜(うり)食(は)めば　子ども思ほゆ(オ)
瓜を食べると、子どものことが思われる。
栗(くり)食めば　まして偲(しぬ)はゆ
いっそうしのばれる。
いづく(ズ)より　来たりしものそ
(子どもというものはどんな縁があって) いったいどこから来たものなのか。
まなかひ(イ)に　もとなかかりて　安眠(やすい)しなさぬ
目の前に、　やたらと(子どもの面影が) ちらついて、安らかに眠らせてくれない。
山上憶良(やまのうえのおくら)

G
反歌(はんか)
銀(しろかね)も金(くがね)も玉も何せむ(ン)にまされる宝子(たから)にしかめやも
銀も金も宝玉も　どうして優れた宝である子に及ぼうか(いや及びはしない)。

H
※多摩川(たまがわ)にさらす手作りさらさらに何(なに)そこの児(こ)のここだ愛(かな)しき
多摩川にさらさらとさらす手織りの布のように、さらにさらに、
どうしてこの娘がこんなにもいとしいのだろうか。
東歌(あずまうた)

※多摩川…山梨県東部から東京都・神奈川県を流れ、東京湾に注ぐ川。

I
父母が頭(かしら)かき撫(な)で幸(さ)くあれて言ひ(イ)し言葉(けとば)ぜ忘れかねつる
父母が(私の)頭をなで、無事であれと言った言葉が忘れられない。
防人歌(さきもりのうた)

J
新(あら)しき年の初めの初春(はつはる)の今日降る雪のいやしけ吉事(よごと)
新しい年の初めの初春(正月)の今日降る雪のように、ますます重なれ、よいことよ。
大伴家持(おおとものやかもち)

東歌と防人歌

東国地方の歌を**東歌**という。東歌には民謡(みんよう)的な歌も多く、言葉には東国の方言がみられる。
また、防人やその家族の歌を**防人歌**という。防人は、古代、九州北部などに派遣(はけん)された兵士で、多くは東国から集められた。「父母が……」の歌は、駿河国(するがのくに)の防人・丈部稲麻呂(はせつかべのいなまろ)によるもの。

確認テスト　和歌を読んで、問いに答えなさい。

(1) Fの歌にうたわれている思いとして適当なものを選びなさい。

ア　日々の食事や生活に感謝する思い。
イ　わが子を思い、いとしく感じる思い。
ウ　ささいなことが気になり、不安な思い。

［　　］

(2) Gの歌の内容に合うものを選びなさい。

ア　どんなものであっても、子どもには及ばない。
イ　子どもというものは、金銀や宝玉と同じくらい尊い。
ウ　金銀や宝玉といったものは、子どものように大切である。

［　　］

(3) 例に従って、Hの歌に含まれる序詞に〰線を引き、序詞に導かれる言葉を□で囲みなさい。

(例) 結ぶ手の滴ににごる山の井の［あかでも］人に別れぬるかな

多摩川にさらす手作りさらさらに何そこの児のここだ愛しき

(4) Iの歌から、「父母」が言った言葉を書きぬきなさい。

［　　］

(5) Jの歌から、雪のように重なってほしいとうたわれているものを書きぬきなさい。

［　　］

(6) 次の歌は、古代の兵士の姿がうたわれているものである。このような歌を何というか。適当なものを選びなさい。

韓衣裾に取りつき泣く子らを置きてそ来ぬや母なしにして　他田舎人大島

衣の裾にとりすがって泣く子を、置いてきてしまった。母もいないのに。

ア　防人歌　　イ　旋頭歌　　ウ　反歌

［　　］